

1 建物概要		BEE	3.0	S	★★★★★★
建物名称	(仮称)新御前ビル	使用CASBEE評価マニュアル CASBEE京都-新築(2011年版)			
延床面積	9,966.76㎡	使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2011(v.1.2)			
用途	事務所及び物販店舗				

2 重点項目への取組度	
キーワード	取組度
1 大切に使う	
2 とともに住まう	
3 自然からつくる	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

1 大切に使う		合計点	32 / 43
■長寿命化		合計点	15 / 20
◇メンテナンスの容易性			
Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア	4	
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア	5	
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア	5	
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア	5	
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア	5	
(注)上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される			
<自由記述>			
◇物理的長寿命			
Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数	スコア	3	
<自由記述>			
◇社会的長寿命			
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	3	
Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ	スコア	4	
<自由記述>			
■省資源		合計点	16 / 20
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア	3	
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア	3	
LR2/ 2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	スコア	5	
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア	5	
地域産木材の内装材への利用			
◆独自加算項目		合計点	1 / 3
LR2/ 2.1 材料使用量の削減			
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。		
LR2/ 2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。		0
2 とともに住まう		合計点	35 / 42
■自然とともに住まう		合計点	12 / 15
◇自然を感じられる計画			
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア	5	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア	4	
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3	
執務室は2.7m以上とし、吹抜を設けている			
■地域とともに住まう		合計点	11 / 15
◇地域環境やコミュニティへの配慮			
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア	5	
LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3	
LR3/ 3.3.2 日光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア	3	
地域産木材の利用、中庭を設け通風採光を確保			
■歴史とともに住まう		合計点	10 / 10
◇歴史性への配慮			
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア	5	
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア	5	
地域産木材の利用、中庭を設け通風採光を確保			
◆独自加算項目		合計点	2 / 2
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観			0
LR3/ 3.3.2 日光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	京都重点項目による加算により、レベル5を超える。 格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している、または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。		0
3 自然からつくる		合計点	45 / 53
■自然材料の利用		合計点	15 / 15
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア	5	
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア	5	
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	スコア	5	
地域産木材の内装材への利用			
■自然環境の利用		合計点	27 / 35
Q1/ 3.1.1 昼光率	スコア	3	
Q1/ 3.1.3 昼光利用設備	スコア	5	
Q1/ 3.2.2 昼光制御	スコア	4	
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア	4	
トップライト及び東面、南面へ垂直ルーバーを採用			
■自然エネルギーの活用			
LR1/ 2.1 自然エネルギーの直接利用	スコア	4	
LR1/ 2.2 自然エネルギーの変換利用	スコア	4	
LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア	3	
◆独自加算項目		合計点	3 / 3
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された:			0
Q1/ 3.1.3 昼光利用設備	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。 デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の昼光利用設備を採用している。		0
Q1/ 3.2.2 昼光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の昼光利用設備を採用している。		0
4 低炭素景観の創出に関する評価		低炭素景観 取組数	4 / 6項目
<input checked="" type="checkbox"/> Q1/3.1.3 昼光利用設備 <input checked="" type="checkbox"/> Q1/3.2.2 昼光制御 <input checked="" type="checkbox"/> Q3/1 生物環境の保全と創出 <input type="checkbox"/> Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上 <input type="checkbox"/> LR3/2.2 温熱環境悪化の改善 <input checked="" type="checkbox"/> LR3/3.3.2 日光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			
5 ライフサイクルCO₂とCO₂削減率			
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値)	63.3	kg-CO ₂ /年㎡	
CO ₂ 削減量	113.96	kg-CO ₂ /年㎡	
	-50.66	kg-CO ₂ /年㎡	
ライフサイクルCO ₂ 削減率			+44.5%
6 ウッドマイレージCO₂とCO₂削減率			
ウッドマイレージCO ₂ CO ₂ 削減効果		kg-CO ₂ kg-CO ₂	ウッドマイレージ CO ₂ 削減率
			0%

:「CASBEE京都-新築(標準システム)」から転記
 :「ウッドマイレージ計算書」から転記
 :自由記述入力欄
 (「4低炭素景観の創出に関する評価」については該当するチェックボックスにチェック)